

会議等名	平成 26 年度 第 2 回海老名市子ども・子育て会議
日 時	平成 27 年 1 月 21 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 20
場 所	海老名市役所 7 階 702 会議室
出席者	<p>委 員 : 鍛冶 邦彦 委員長、小島 良之 委員、櫻井 慶一郎 委員、山田 由美子 委員、木村 伸之 委員、今井 大輔 委員、門倉 久美子 委員、村田 静 委員</p> <p>(欠席 ; 新倉 美和子 副委員長、久保 由美 委員、大貫 望 委員、長久 裕 委員、増田 芳夫 委員、亀澤 ますみ 委員、村田 愛 委員)</p> <p>事務局 : 保健福祉部次長 (福祉担当) 兼福祉事務所長 清田 芳郎、子育て支援課長 杉村 俊夫、子育て支援課主幹兼保育係長 波多野 美浩、保育係主査 近藤 直樹、主事 片山 考人、教育指導課児童育成係主任主事 大黒屋 祥子</p> <p>傍聴者 : 1 名</p>
1 開 会	
2 あいさつ	<p>※ 事務局あいさつのほか、P T A 連絡協議会選出の委員に変更があったため、新任の今井大輔委員からあいさつがあった。</p>
3 議 題	<p>※ 傍聴の申し出が 1 名あったため、傍聴の可否について議題の前に議長から委員に諮り、了承された。</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業計画 (案) について</p> <p>(2) 子ども・子育て支援事業計画 (案) のパブリックコメント実施について</p> <p>・ 別紙に基づき事務局から一括して説明した。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>《あそびっ子クラブについて》</p> <p>・ 放課後の子どもの居場所として、あそびっ子クラブについての計画が盛り込まれているが、現在は毎日実施されているわけではない。もっと開催日を増やすことはできないか。(委員)</p> <p>→ お願いしている指導員の都合がつかないときなどは、開催できていない。教育委員会でも開催日を増やしていきたいと考えており、指導員を増やすなど、取り組んでいきたい。(事務局)</p>

《公立保育所のあり方について》

- 公立保育所で保育の需給調整をしていくという方向性には賛同する。(委員)
- 待機児童解消が叫ばれるなど、保育の量の確保に目先が行きがちだが、保育所は福祉施設であり、質の確保は極めて重要である。また、需要が少ない地域での公立保育所の役割も大きい。公立保育所が先導して保育の質を向上させ、地域間格差もなくしていくという姿勢を、この計画の中で示してもらいたい。(委員)

《学童保育について》

- 学童保育について、指導員の質の担保はどうするのか。研修はどのように行うのか。(委員)
 - 指導員の要件は、前回の会議で諮った「海老名市学童保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」で定めた。保育士等の資格のほか、県が定める研修を受講することが義務付けられている。教育委員会としては、研修を受けるための支援をしていきたい。(事務局)
 - 事業者としても、レベルアップをしていかなければならないと思っている。(委員)
- 学童保育は計画書では市内 22 か所とのことだが、増やすことは難しいのか。施設がない地域もある。(委員)
 - 計画書は平成 25 年度のものであり、現時点では、27 か所である。海老名市の場合、今までの経緯から学童保育はすべて民設民営となっているが、学童保育の充実のため、不足する地域へは公設学童保育の設置等による市としての支援を検討していきたい。(事務局)

《パブコメの実施について》

- パブコメは、どのように行うのか。「これについてはどう考えるか」などの問答形式にするなど、意見を出しやすい形式にしてほしい。(委員)
 - 概要版を作るなど、わかりやすくなるよう検討したい。(事務局)
- 計画については、子ども・子育て会議の審議により毎年進行管理をしていく。(事務局)

《その他》

- 今日示した計画については、この後パブコメの実施、議会への報告という流れになるため、まだ変更の余地がある旨御了承願いたい。(事務局)

(3) 新制度の施行に伴う特定教育・保育施設及び地域型保育事業の利用定員設定について

- ・ 新制度の施行に伴い、県が認可する定員とは別に市町村において利用定員を定める必要があるため、別紙に基づき事務局から説明した。

【質疑応答】

《利用定員の設定について》

- ・ この利用定員とすれば、待機児童は解消されるのか。(委員)
→ 新設のえびなの風保育園分(120名)は純増となるが、ニーズ調査によると解消には至らないため、子ども・子育て支援事業計画ではこのほかにも増設する計画としている。(事務局)
- ・ 子ども・子育て支援事業計画のスタンスとしては、平成31年度までに待機児童を解消するというのでよいのか。(委員長)
→ そうである。(事務局)
- ・ 海老名市全体だけではなく、地域ごとの定員にも気を配ってほしい。(小島委員)
→ 保育士不足により、定員まで入所できない例もある。また、通園できる範囲を考えれば、定員だけを満たせばよいものではないと考えている。(事務局)

《保育士の確保について》

- ・ 現場では、保育士の配置基準を満たすだけでは到底運営できない。延長保育に対する補助など、国も一時より金は出すようになってきたが、保育士の要請を本気で行っているとは思えない。また、国が定める運営費の単価も保育士の昇給に対応しておらず、結婚して辞めていくことを前提としている。(委員)
- ・ 小規模保育事業においても、現状の認定保育施設より保育士の増が求められているが、確保は難しいのが実情である。(委員)
- ・ 近隣に保育士を養成する短大もあるので、合同就職説明会を実施するなどの取組を行ってはどうか。(委員)
- ・ 保育士確保の問題は、極めて重要であることが改めて浮き彫りになった。真剣に考えていきたい。(委員長)
→ 県も保育士試験を年2回に増やして実施するようだが、子ども・子育て会議としても、いい案があればどんどん出してもらいたい。民間保育会とも協力して取り組んでいきたい。(事務局)

《その他》

- ・ 認定こども園に移行する園はないのか。(委員長)
→ 平成 27 年度の予定はない。アンケートで、移行を考えているという園があったため、計画に盛り込んだ。(事務局)
- ※ 利用定員については、別添資料のとおりとすることについて了承を得た。

(4) その他

- ・ 計画に盛り込まれていた紙おむつの支給事業とはどのような事業か。(委員)
→ 詳細については、議会の承認を経たのちに公表することになるが、現時点では、対象の方を限定した上で、費用の一部を助成することを考えている。(事務局)

4 閉 会

- ・ 次回の会議は、パブコメ後を予定している。(事務局)

以 上